

藤 沢

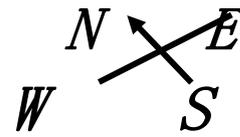
エコネット

藤沢環境運動市民連絡会議

(略称) 藤沢エコネット

2023年6月1日

第349号

<http://econet2015.sakura.ne.jp>事務局 e-mail: aoyagipc@jcom.home.ne.jp 青柳

☎ / FAX 0466-87-4922

主
な
記
事

- ・2023年度総会報告
- ・平和行進今年も

世界は動き始めるだろうか？ G7広島サミット

先進7ヶ国首脳会議が被爆地広島で開幕された。5月19日夜に核軍縮をテーマに討議し、共同文書も発表された。

77年以上の長きに渡り核兵器が使われてこなかった。継続を訴える広島出身の岸田文雄首相「核兵器のない世界」実現に向けて唯一戦争被爆国として核軍縮を叫んでみたものの各国の反応はいま一つの感がある。それは各国の現存する核弾頭数を見るとロシア 5977 発、米国 5428、中国 350、フランス 290、英国 225、パキスタン、インド、イスラエル、北朝鮮と続く(新聞資料参考) これらの核保有国が核軍縮の枠組みに積極的にかかわってくるとは考えにくい面もちらつく。まして我が国は「核の傘」に守られていてその矛盾は解けない。「核兵器のない世界」という理想をG7で追加共有したにとどまる。

それでも国際秩序を堅持し平和を守りぬく決意を被爆国である日本が世界に示すことができたことは大いなる前進であったと思う。

ウクライナのゼレンスキー大統領が急ぎよ広島へ足を運び、各国首脳との対話、原爆資料館を訪れ今は平和な街になっている広島を見て自国に思いをさせ「必ずこのような復興が将来ある」と強調したなどの報道は印象的であった。

原爆資料館を訪れた各国首脳が芳名帳に記入された内容も公表されG7広島サミットも終わりを告げた。限られた時間にめいっばいの行事、被爆者との対話、広島で被爆しノーベル平和賞受賞のサーロー節子さんは会見のコメントの中で「サミットは大きな失敗だった、核兵器禁止条約に全く触れていない」と厳しく批判しG7首脳や日本政府の対応に大きな疑問をなげかけた。ともあれG7他の関連参加国機関等意義ある広島宣言であったことは間違いない。要はこれで治まることなく、機会あるごとに何回も何回も今一層の人類の繁栄のために「核兵器のない世界」を全世界が統一用語として唱和することを私は願っている。(広島被爆者 埜下雅美)



アジサイ 湘南台東口で

2023 年度総会報告

藤沢エコネット総会が5月22日に行われ議案が採択されました

2022 年度活動報告 (2022.5～2023.4)

1. 地球温暖化防止活動（気候危機）

2021年2月、藤沢市は気候非常事態宣言を発出した。2022年度、藤沢市は環境基本計画、温暖化対策実行計画見直しをおこなったが、①実態と乖離した現状把握、②低すぎるCO2削減目標46%、③再生エネ計画が見えない、④推進体制に問題、など不十分な計画となっている。藤沢エコネットが参加している「NGO 気候危機アクション藤沢」は、2022年4月22日のアースデーに第1回目の気候危機時計スタンディングを行い、気候危機啓発活動を毎月継続して行い、'23年4月に第12回目のスタンディングを行った。

2. バイオハザード問題

藤沢エコネットが協力する「武田問題対策連絡会」は、湘南ヘルスイノベーションパーク（略称湘南アイパーク）の遺伝子組み換え実験の安全操業を求め、見守りを続けている。

武田薬品工業（株）が三井住友信託銀行に売却し、運営は武田薬品工業が行ってきた。2023年4月、運営は3社（武田薬品 IIF（産業ファンド投資法人）三菱商事）で作った新会社「アイパーク・インスティテュート（株）」に移った。約150社（研究部門30%）勤務者2000人という。

武田問題対策連絡会は藤沢市を通し、湘南アイパークに質問と要望をおこない、安全対策を求めた。

3. 原子力発電被害問題

現在9基の原発が稼働。廃炉決定は21基。原発ゼロ法案が上程されて1日も早い原発ゼロ政策を実現する必要がある。

福島原発事故から12年、避難者は現在も福島県外に2万7千人余りいる。福島県の子どもの甲状腺がんは約320名、2022年1月、事故発生当時6～16才で甲状腺がんを発症した6人（現在7名）が東電を提訴し裁判を続けている。

放射能の影響を避けるための保養活動が求められる。エコネットが協力する「福島の子どもたちと

もに・湘南の会」では、コロナ禍で湘南に呼べないため、各家族のリフレッシュ活動を応援し、20家族88人に助成をした。藤沢エコネットでは毎月空間放射能測定を行い、ニュースに掲載している。

4. 大気保全活動

藤沢エコネットが参加している「藤沢の空気を考える会」で12月にNO2簡易測定調査をした。コロナ禍で6月は実施できず、12月は103本測定。12月平均0.049ppm（環境基準0.04～0.06ppm以下）で環境基準内であった。コロナ禍で、ぜん息統計を'20年'21'22年度はしていないとの市の説明。大事な統計なので是非来年度からは実施してほしいと要望した。

海岸の砂防林に、県が人体に影響のあるネオニコチノイド系農薬を散布している事を取り上げた。

5. 開発問題その他

村岡新駅建設に県が30%、JRが15%、藤沢市鎌倉市が27.5%ずつ拠出予定。駅舎のみで約150億円、周辺開発費を入れると400億円ほどにもなる。2021年2月にJR、県、藤沢市、鎌倉市4者で合意、2032年完成予定と発表。2022年3月に都市計画決定した。鎌倉市は市庁舎を深沢地区に移転する計画を市議会は否決した。駅の予定地は軟弱地盤であることから、工事に更に増額が予定されている。凍結が望ましいなどニュースに掲載した。

6. 環境情報交換活動

この1年、上記の様々な活動に協力し、市民に情報を伝えた。

- ・2022年11月26日ふじさわ環境フェア（市主催）に展示参加 企画実行委員として参加 気候危機時計を開発して映像展示/大気汚染/武田問題の展示をした。
- ・ニュース毎月発行 2022年5月号(336号)～2023年4月号(347号)発行。
- ・HPは、ニュース前月号までを掲載している。4月号は選挙アンケート結果を公表したので、4月中にHPに掲載した。
- ・WEB会員にニュースを毎月カラー写真入りで届けた。

2023 年度藤沢エコネット活動計画

1. 情勢と方針

- ①地球温暖化問題は環境の中心的課題である。人類の未

来が関わっていて、一刻も猶予できない。

気候変動政府間パネル (IPCC) は 1990 年第 1 次報告書を発表、2023 年 3 月第 6 次統合報告発表でこのままいくと 2030 年までに排出限度に達する、35 年までに 2019 年度比 60%削減必要と発表。グテーレス国連事務総長は、先進国は 2040 年までにカーボンニュートラル (CO2 排出ゼロ) を前倒しすることを求めた。

藤沢市は 2022 年、環境基本計画、温暖化対策実行計画改定をおこなったが、温室効果ガス 46%削減 (2013 年度比) と低い目標であるが、推進体制が強化された。「NGO 気候危機アクション藤沢」とともに、市のカーボンゼロ政策を学習し、必要な提言などをしていく。

②戦争は最大の環境破壊・人権破壊である。

2022 年 2 月、ロシアがウクライナを侵略・侵攻し今も続いている。国外への避難民は 800 万人を越えた。国連総会でロシア非難決議が採択されたが、プーチン ロシア大統領は侵略を止めず、核までちらつかせている。またアフリカのスーダンでは 4 月頃から内戦が激しくなっている。

日本では平和安全法制 (戦争法) が 2015 年に成立後、政権は憲法を改正し自衛隊を書き込もうとしている。改憲に伴う国民投票法が成立、憲法審査会が開かれている。ウクライナ戦争も影響して、大軍拡、改憲の動きは、先の戦前の様相に近くなりつつある。

戦争は最大の環境破壊、藤沢エコネットは平和運動に協力する。

③新型コロナウイルス感染症は、5 年目に入り、2023 年 5 月から 5 類に変更、感染対策は個人の選択を尊重し、自主的な取り組みをベースとした対応になる。

世界保健機構 (WHO) は 5 月 5 日、新型コロナパンデミック終了宣言をした。今までに世界で約 6 億 7660 万人が感染し約 688 万人の死者 (2023/3/10 現在)。日本では約 3,377 万人余り感染、約 74,600 人余りが死亡 (5/5 現在)。藤沢市は 97,787 人感染、233 人死亡 (5/8 現在)。日本の死亡率は 0.22% と世界の死亡率 1.02% よりかなり低い。ワクチンの被害も伝えられている。

コロナ情報をニュースに取り上げていく。

④原発は現在 9 基が稼働中であり、政府は原発をベース

ロード電源として 20% 使用しようとし、さらに GX (グリーントランスフォーメーション) の為と称して、原発回帰をし、次世代型革新炉の開発、40 年長くて 60 年稼働とし、更に延長しようとしている。

ドイツは 4 月脱原発を達成した。地震国日本では環境安全上、平和安全上脱原発を決断すべきである。

- ⑤バイオハザード、あふれるプラスチック、電磁波の影響、PFAS、農薬の危険など身近な環境汚染がある。ニュースに取り上げて知らせ、協力していく。

2. 活動計画

- 例会・事務局会議 — 毎月 1 回第 1 土曜
- ニュース発行 — 毎月 1 回印刷発送 WEB 会員にカラー版ニュース配信
- ホームページ更新 — 毎月ニュース前月号までを掲載 環境情報発信
- 環境講座開催 — 市内ごみ焼却場、プラゴミ処理施設など見学会 自然観察会 新エネルギー見学会など
- ふじさわ環境フェア参加 — 企画実行委員として取り組む。展示参加。
- 共通する課題での活動
 - 地球温暖化防止活動 ○脱原発活動 ○平和問題
 - 開発問題 ○大気問題 ○環境影響問題○ごみ問題
 - 環境に関する政策提言・シンポジウム開催など



藤沢エコネット 2022年度 決算書				
				単位：円
収入の部	科目	予算	決算	備考
	繰り越し	25,646	25,646	
	会費	140,000	164,000	81口
	寄付収入	39,354	29,500	寄付
	事業収入	25,000	0	
	雑入		0	
	合計	230,000	219,146	
	23年度予算案			37,381
				140,000
				27,619
				25,000
				230,000
支出の部				
科目	予算	決算	備考	23年度予算案
講師謝礼	30,000	0		20,000
会場費	5,000	5,000	会議室 ロッカー代等	5,000
印刷費	40,000	24,825	印刷 コピー代	35,000
通信費	140,000	134,236	メール便 振込手数料	140,000
消耗品	12,000	14,704	封筒 ラベルシート	12,000
雑費	3,000	3,000	母親大会等広告	3,000
次期繰越		37,381		15,000
合計	230,000	219,146		230,000

平和行進今年も

今年も5月16日、核兵器のない世界の実現を願って行進しました。ロシアのウクライナ侵攻から1年経ち、核の使用をちらつかせている今こそ世界中から核兵器の廃絶が求められています。

平和行進は1958年から始まり今年では66年目になります。毎年、東京の夢の島にある第五福竜丸展示館前から出発、コースに分かれて全国の都道府県を回り、広島・長崎へ通して歩くという壮絶な平和への戦いでもあります。そして核兵器禁止条約が発効し68カ国が批准しています。日本中から「戦争もなく核兵器もない平和な日本と世界のために」という声を政府に届けるために一歩ずつ歩いて行きました。コロナ禍で行進できなかった年もありましたが今年では行うことができました。

藤沢では、市役所前に集合しあいさつのあと藤沢橋方面へ約1時間のコースを黙々と歩き、思いおもいの言葉を書いたプラカードや、平和への祈りを込めて広島・長崎に寄贈された折り鶴を再生して生まれ変わり「平和のパナント」に。団体や個人の名を書いたパナントを掲げてアピールしました。東京都から引継ぎ神奈川県を巡り静岡県へつなぎました。

通して参加された2人は元気でした。あいさつでは、「核兵器廃絶平和都市宣言」のある藤沢市の鈴木市長からのメッセージもあり、通して歩く被爆2世の村上厚子さんは「今年では特別な責任を感じていて、核の恐ろしさ、平和への願いを伝えるため原水爆禁止世界大会の成功を目指している」と述べました。

晴れた5月の空のもと、ピースリレー・ふじ



行進を終え、パナントを掲げて集合！

さわ実行委員会で開催された行進は私も初参加で気持ち良い行進となりました。(荒井)

ECONET INFORMATION

▲気候危機スタンディング

6月23日(金) 15:30-六会駅西口

温暖化対策を訴えます、どなたでも参加できます

主催：気候危機アクション藤沢

▲教えられなかった戦争・沖縄編 上映

一阿波権昌鴻・伊江島のたたかい

6/24(土)10:00~ 13:00~ 6/26(月)10:00~

エコストアパパラギ2階 ¥1200

主催 湘南平和憲法の碑を建立する会

申込み予約を 0466-50-0117



▲有機フッ素化合物(PFAS)学習会

DVD上映と山内幹郎さんのお話

6月27日(火) 14:00-

Fプレイス3階会議室 参加費¥500

主催/武田問題対策連絡会 080-5099-4264

▲震災復興支援コンサート in ふじさわ

~放射能から子どもを守ろう~

7月17日(月)13:30-15:30

藤沢市民会館第一展示ホール 参加費 500円

連絡先 080-3018-8191 荒井



▲藤沢エコネットから

◆新年度につき会費納入をお願い致します

◆会員募集 年会費・購読料→2000円

【ゆうちょ銀行 加入者名 藤沢エコネット

口座番号 00240-9-46501】

◆事務局会議 6月3日(土)10:00-六会公民館



《編集後記》6月5日は世界環境デー、6月は環境月間です。どうすれば人が、いつまでも住みやすく、生物多様性が発展するような地球環境にできるかが問われています。「ごみを減らす」「プラスチック使用を減らす」「再生可能エネルギーに変える」など身近なことから始め、地球の未来を考えましょう。Think globally, Act locally。(A)